

## 平成二十九年 度 埼玉 県 公立 高校 入 試 問 題 解 説

※入試問題の文章本文はテレ玉ホームページよりダウンロードできます。

サイエイスクールの杉山純一です。今回は、平成二十九年 度 埼玉 県 公立 高校 入 試 を 題 材 に 「説 明 的 文 章」と「古文」について一緒に勉強していきます。

### 説 明 的 文 章

では、まず初めに「説明的文章」のポイントから確認していきます。「説明的文章」のポイントは『目印』を手掛かりに筆者の主張をつかむことです。そこで、今回は代表的な「目印」を三つご紹介します。

#### ◎説明的文章のポイント

- ① 筆者の主張 ↓ 具体例 (↓ 筆者の主張) ★ 具体例は ( ) でくり、前 (後) をチェック！  
 (例) 現在、世界規模で深刻な環境破壊が起こっている。(例) えば、森林伐採など。
  - ② 対比 「しかし／だが／…ではなく…」 ★ 対比の「目印」の後をチェック！  
 (例) 日本人は、十を聞いて十を知るのではなく、一を聞いて十を知ることをお好む。
  - ③ 疑問文 ↓ 答えの文 ★ 「疑問文」と「答えの文」のどちらもチェック！  
 (例) 人間とはいったい何か。人間とは「進化をやめない動物」であると言える。
- ※ 主語・述語に絞ってチェック！

どうでしょうか？ では、平成二十九年 度 埼玉 県 公立 高校 入 試 の 大 問 三 の 説 明 的 文 章 の 第 一 段 落・第二段落を使って、実際に練習をしてみましょう。

#### 第 一 段 落

確認してみますと、一文目は「たとえば」という具体例を表す「目印」がありますので、( ) でくり、スピードを上げて読んでしまい、具体例の直後で、かつ、疑問文になっている二文目「絵の価値はどのように決まるのか」という部分をしっかり押さえましょう。また、先ほど確認したように「疑問文」が出てきたら「答えの文」を探すのでしたね。では、「答えの文」を意識しながら、第二段落を確認していきます。

#### 第 二 段 落

確認してみますと、三文目に「たとえば」という具体例を表す「目印」がありますので、( ) でくり、スピードを上げて読んでしまい、具体例の直前である二文目、または、二文目と同内容である一文目「絵の価格は作品数が少なく、世の中に欲しがる人が多ければ多いほど高くなる」という部分であることがわかります。

このように、「説明的文章」は、筆者が読者である皆さんが文章という道に迷わないよう残してくれる「目印」に注目しながら読むように心掛けてください。

では、ここで「読む」練習だけでなく、記述問題を「解く」練習もしてみましよう。

問4 ③「生産の場」によって社会的に形成された一種の神話、ブルデュー言うところの「信仰」にすぎない。とありますが、これを説明した次の空欄にあてはまる内容を、付与、共通の二つの言葉を使って、四十五字以上、五十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。

普遍的真理であるかのように思われている芸術作品の価値は、にすぎない、ということ。

### 手がかり その① 「設問文」

国語の問題では、まず、「設問文」の内容をしっかりと確認するところから始めましょう。なぜなら、「設問文」の内容自体が、問題を解く第一の手がかりとなるからです。この問題では、(芸術作品の価値について)ブルデューは「信仰」にすぎないと言っているが、これはどういうことか、ということが問われています。そこで、まずはブルデューが芸術作品の価値について述べている部分を押さえるところから始めましょう。探してみますと、第六段落に該当する箇所があります。

### 第六段落

二文目に「ブルデューによれば」とあり、文末が「ではない」と「対比」を表す「目印」になっています。そこで、「ではない」の後の文が第六段落の筆者の主張であることがわかります。

そこで、次の三文目を見てもみますと、(芸術作品の価値は)それを生み出した芸術家が「創造的な力」を持った特別な人だと皆に認められ、崇拜の対象になったときに高まる、といった内容が書かれています。そして、その価値には客観的な根拠がないので、ブルデューはそれを「信仰」(皆がそう思い込むことで成り立っているもの)にすぎないと評しており、この部分が「設問文」を手がかりに押さえられる、解答の材料となります。

### 手がかり その②「指定語句」

設問で、使うように指示されている指定語句がある場合は、その語句が含まれている箇所も解答の材料になることが多いです。今回は「付与」「共通」の二語が指定語句になっていますので、これも探しましょう。すると、手がかり①で押さえた第六段落の三文目に二語とも確認できます。

### 手がかり その③「次の文」の空欄の前後

また、今回のように設問に「次の文」がある場合、その文の空欄の前後も解答の手がかりとなります。空欄の前に「普遍的真理であるかのように思われている芸術作品の価値は、」とあり、後に「にすぎない」とありますので、この表現につながる内容を探し、まとめます。

では、手がかりをもとに集めた、第六段落の三文目の内容を用いて、解答を作成してみましよう。「付与」「共通」という二語を使うのも忘れないようにしましょう。

普遍的真理であるかのように思われている芸術作品の価値は、  
（例）芸術家が「創造的な力」に恵  
まれた特殊な存在であるという**共通**の認識が形成され、**付与**されたもの  
にすぎない、  
ということ。

記述問題で正解するコツは、設問文が発しているヒントに気づき、問われている内容が書かれて  
いる箇所を本文中から素早く見つけることです。今回お伝えした「説明的文章のポイント」を  
駆使し、速く正確に「読む」訓練を積み、**最初に文章を読み終えた段階で「筆者の主張＝要点」**  
**がつかめているという状態になるように**していきましょう。

## 古文

では、次に「古文」のポイントを確認していきます。

### ◎古文のポイント

・主語・述語を押さえ、本文のおおまかな意味をつかむ！

今回は練習として、大問四の問1の問題を扱います。

問1 傍線A～Cの主語を、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を書きなさい。なお、同じ記号を何度使ってもかまいません。

ア 蔡順

イ 王莽

ウ 母

エ 人を殺し、剥ぎ取りなどする者ども

A

では、まず傍線A「拾いけるが」の主語を確認していきましょう。

古文の一文目で「蔡順は」とありますので、人物は○で囲みましょう。その後の「汝南といふ所の人なり」の主語は「蔡順」となります。

二文目に傍線Aの「拾いけるが」があります。「王莽」という人物から始まりますので、○で囲みましょう。ただし、この部分は「王莽」という政治家が政治をしていた時代の終わりに」という意味なので、二文目の主語は「王莽」ではありません。そのあとの、「**王莽という政治家が政治をしていた時代の終わりは**）**食事が乏しかったので、母のために桑の実を拾った**」のは誰かと考え、**主語を特定しましょう**。すると、傍線A「拾いけるが」の主語は**アの「蔡順」となります**。

B

次に傍線Bの「去りけり」の主語ですが、傍線Bは三文目にあります。三文目は、「人を殺し、剥ぎ取りなどする者ども」という人物が冒頭部分に出てきますので、○で囲みましょう。この者どもが「蔡順」に「なぜ桑の実を熟しているのと熟していないのとに分けるのか」と質問します。**それに対する「蔡順」の回答に「心強き不道の者」が「孝を感じて、米二斗と牛の足一つ」を与えて去ったわけです**。よって、傍線B「去りけり」の主語は「心強き不道の者」、つまり**エの「人を殺し、剥ぎ取りなどする者ども」となることが分かります**。

C

最後に傍線Cの「食すれども」の主語です。「心強き不道の者」にももらった「米と牛の腿」を「母」に与え、また、自らも食べた人物を答えます。すると、傍線C「食すれども」の主語は**アの「蔡順」となることが分かります**。

このように、古文は主語と述語を押さえ、大まかに本文の内容をつかむように心掛けましょう。  
では、最後に本日のポイントをおさらいします。

### 公立必勝ポイント

#### ◎説明的文章のポイント

☆「目印」を手掛かりに**筆者の主張**をつかむ！

- ① **筆者の主張** ↓ 具体例 (↓ 筆者の主張)
  - ② **対比** 「しかし／だが／…ではなく…」
  - ③ **疑問文** ↓ **答えの文**
- ※ 主語・述語に絞ってチェック！

#### ◎古文読解のポイント

☆ **主語・述語**を押さえ、本文のおおまかな意味をつかむ！

それでは受験生のみなさんはもちろん、その他の学年の皆さんも、是非、今回の授業の内容をもとに練習を積み重ねていってください。また、今回扱った問題の「類題」がサイエイスクールのホームページにありますので、そちらも合わせてご活用ください。

入試まで残り約三か月となりました。受験生の皆さんは来春、志望校に合格されることを、また、その他の学年の皆さんはこれを機に少しでも国語が得意になることを切に願っています。では、今回はこれで終わりにします。ありがとうございました。